

DropNews とは ～絵で見てわかるニュース配信を始めた理由～

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい始めた頃、私は長年勤めた長野県の特別支援学校を一旦退職し、神奈川県にある国立特別支援教育総合研究所に勤務していました。国の機関に身を置くことになったそのタイミングで、学校現場は新型コロナウイルス感染対策に翻弄されることになります。研究者と言う立場で仕事をしていたとはいえ、自分の心は常に教育現場と共にあると思っていましたので、直接には現場の先生たちや子供たちの役に立てないことに、とても申し訳なさを感じていました。

そんな状況下で、逆に私を勇気づけてくれたのは、全国の特別支援学校の先生方から次々と寄せられてくるシンボルの活用依頼です。遠隔の授業での情報提示や、子供たちに郵送する学習プリント。それらに「ドロップレット・プロジェクト」が提供しているシンボル「ドロップス」を使って良いかという問い合わせです。一斉休校で直接会うことはできない子供たちに、何とかわかりやすい教材を届けたい。楽しい学習課題を届けたい。そんな先生たちの気持ちが伝わってきました。厳しい状況に負けない先生たちの気持ちに、自分たちも応えなくてはと思いました。そこで急遽ドロップレット・プロジェクトのウェブサイト「シンボル等を教材に活用することは一切問題がない。著作権の心配をせずにどんどん使っていただきたい」旨の告知を出しました。全国の現場の先生たちから、今できることを、とにかくすぐにやる姿勢を学びました。

このような事を通して、改めて絵で見てわかるように伝えることの大切さを痛感しました。振り返ってみると、世の中は子供たちにとって決してわかりやすいとは言えない情報に溢れています。感染症だけでなく、ここ数年日本では、地震や豪雨といった自然災害が及ぼす被害が甚大になってきています。そんな身近な災害情報こそ、わかりやすく伝え、対策方法や行動の仕方を具体的に示す必要があるはずで、その繰り返しと日常化が、子供たちが積極的にニュースに触れ、自分の生活に役立てようとする姿勢につながるのではないのでしょうか。

DropNews は、ドロップレット・プロジェクトのデザイナー竹内奏子氏の魅力的な絵と、ネスコプラズム氏という得難いデザイナーの力で、楽しい視覚ニュースになりました。この報告書でその成果をお伝えすることが、みなさんのこれからの視覚情報を用いた支援のヒントになる事を願っています。

ドロップレット・プロジェクト代表 青木高光

目次

DropNews 傑作選

6・7月	5
8・9月	6
10・11月	7
12・1月	8
2・3月	9

実践事例

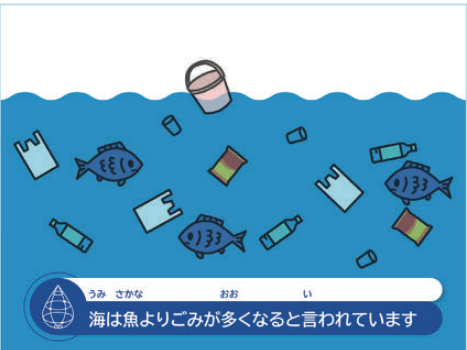
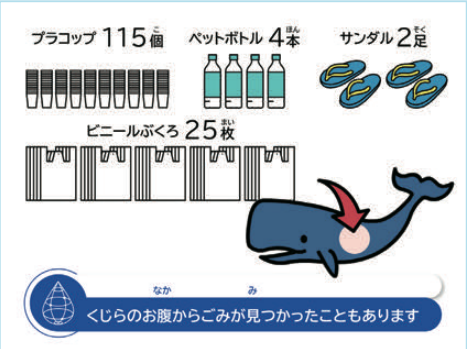
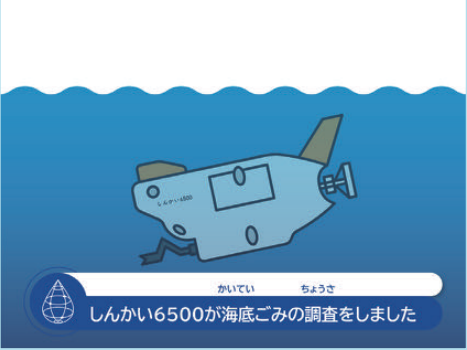
01 ぼくのニュースで今日が始まる！	10
02 授業はじめの10分は「DropNews」の時間	11
03 みんな楽しみ 朝の会「きょうのにゅーす」	12
04 DropNewsを取り入れて変わったこと	13
05 いろんなニュースを知ろう！楽しもう！	14
06 毎週金曜日のお楽しみ『今週のDropNews』	15
07 見てわかる「DropNews」	16
08 授業の始めにDropNewsで「ニュース読み」	17
09 DropNewsを届けてみた！	18
10 自分で作った「冬休みのNews」を発表しました	19
11 DropNewsキャスターになろう	20
12 4種類の音声で動画化したDropNewsの活用	21

DropNews イベント

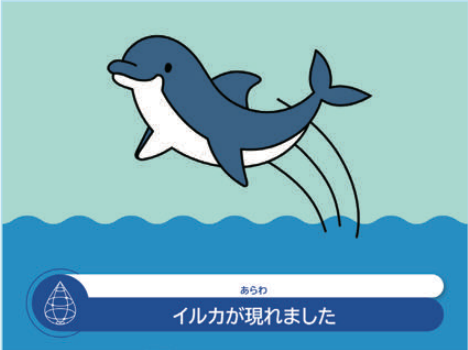
第1回	22
第2回	24
第3回	26
第4回	28
第5回	30

DropNews：本年度活動のまとめ	32
--------------------	----

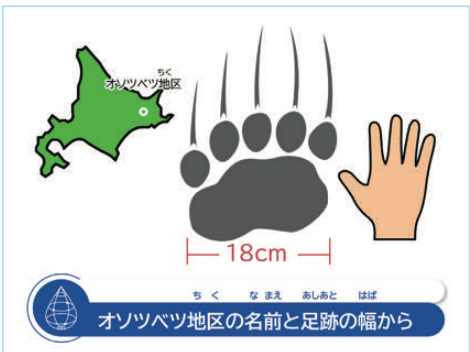
DropNews
傑作選 6月



DropNews
傑作選 7月



DropNews
傑作選 8月



DropNews
傑作選 9月



DropNews
傑作選 0月

東京都では自転車の事故が増えています

警察が厳しく取り締まることになりました

信号を守る、一時停止

車道は左側を走る、歩道はゆっくり走りましょう

DropNews
傑作選 1月

今日の夜は皆既月食が見られます

月食の始まり 午後6:09ごろ
皆既食の始まり 午後7:16ごろ
皆既食の終わり 午後8:42ごろ
月食の終わり 午後9:49ごろ

午後6時ごろから月が欠け始めます

天王星食の始まり 午後8:41ごろ
天王星食の終わり 午後9:22ごろ

今回は天王星食も一緒に見られます

2022年
2344年

皆既月食と惑星食が次に見られるのは322年後です

DropNews
傑作選

2月

DropNews
傑作選

月

フィファ
FIFAワールドカップ

けだ
今朝、サッカーのワールドカップで

きょうと ふ やさかじんじゅ
京都府の八坂神社で

日本 × ス페인

にほんたい しあい
日本対スペインの試合がありました

はじ めん おこな
かるた始めが3年ぶりに行われました

日本 × ス페인

たい 対 1

たい にほん か
2対1で日本が勝ちました

へいあんじだい いしやう ひやくにんいっしや
平安時代の衣装で百人一首のかるたをしました

にほん けっしょう しんしゆつ き
日本は決勝トーナメント進出を決めました

きやうぎ おこな
競技かるたも行われました

DropNews
傑作選

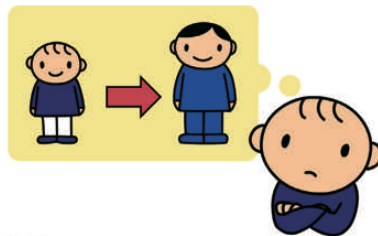
2月



きょう にがつか せつぶん
今日、2月3日は節分です

DropNews
傑作選

3月



おとな ちようさ おこな
大人になったらなりたいものの調査が行われました



けんこう あんぜん わが ぎやうじ
健康や安全を願う行事です

しょうがくせい 小学生なりたいものランキング

男の子	女の子
1位 会社員	1位 パティシエ
2位 YouTuber	2位 漫画家 イラストレーター
3位 サッカー選手	3位 会社員

しょうがくせいだんしん い かいしゃいん じよし
小学生男子の1位は会社員、女子はパティシエ

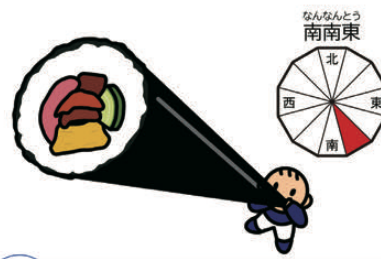


おに そと お だ ふく いえ い
鬼を外に追い出し福を家に入れます

ちゆうがくせい 中学生なりたいものランキング

男の子	女の子
1位 会社員	1位 会社員
2位 ITエンジニア プログラマー	2位 漫画家 イラストレーター
3位 公務員	3位 公務員

ちゆうがくせいだんしん い かいしゃいん じよし かいしゃいん
中学生男子の1位は会社員、女子も会社員



えぼりま た ちいさ
恵方巻きを食べる地域もあります

こうこうせい 高校生なりたいものランキング

男の子	女の子
1位 会社員	1位 会社員
2位 公務員	2位 公務員
3位 ITエンジニア プログラマー	3位 看護師

こうこうせい い かいしゃいん
高校生も1位は会社員でした

知的障害特別支援学級に在籍する A くんは、交流学級の朝の会に毎日参加をしていました。ただ、淡々と行われる朝の会の流れの中では出番はなく、活躍する場もありませんでした。

そのような中、DropNews の配信をきっかけに、毎朝届けられるニュースを朝の会で紹介する場面を設けました。DropNews は、分かりやすいイラストと端的に表現されたふりがな付きの文章で表現されているため、ひらがなやカタカナが読める A くんにとってはとても取り組みやすいものでした。

毎日行われる朝の会の最後に「今日のニュース」を紹介しました。配信された DropNews を電子黒板に投影し、交流学級の友達に伝えました。食品の値上げに関する記事（6月1日配信）では、金額の値上げと量や個数の削減という2つの対策があることを知り、子どもたちは自分たちにも身近な問題であることに気付いていました。さらに、話題に上がっていた商品の個数を A くんが中心となり数え確認することができました。数え終わった後に商品は、みんなで美味しくいただきました。

交流学級で毎日の役割と出番を得たことで、A くん自身が朝の会に参加していると実感し、自分の出番を心待ちにしている様子が見られました。また、今日はどんなニュースがあるのだろうと身を乗り出して電子黒板を見入る周りの子どもたちの姿を毎朝見ることができるようになりました。

A くんが伝える時事的な話題から交流学級の一日を始めることができました。交流学級担任をはじめ、周りの子どもたちから伝えられたニュースに関する話題が広がっていくことが増えました。子どもたちからは、「身近なものの情報を見ることができとても楽しい。」「いつも分かりやすく、おもしろくニュースを見ています。」「ふつうにのっているニュースよりも豆知識系やおもしろい系のニュースを聞いてとても楽しく見ています。知識もたくさん知れるので勉強になります。」という感想がありました。

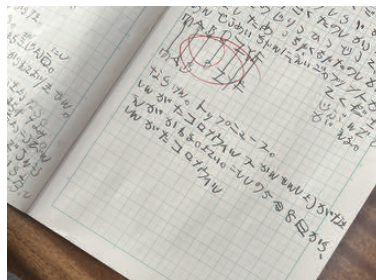
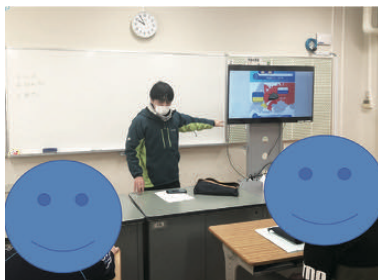
A くんは、今年度で小学部を卒業します。今回の取組は、6年生だけのものでした。職員室で湧き上がる DropNews ネットを聞き、うらやましがっていた先生がたくさんいました。校内のもっと多くの人にニュースを届けられるように、次年度は、配信されるデータに A くんが読み上げる音声や映像等を取り入れながら、中学部に止まらず、小学部にも配信できればと考えています。



知的障害特別支援学校中学部2年生の授業で活用しました。対象となる生徒は課題別学習グループ4展開中最も軽度の子どもたちが所属するIVグループの生徒10名と2番目に軽度の子どもたちが所属するIIIグループの生徒10名です。IVグループは週2コマ（1コマ50分）の自立活動・道徳の授業、IIIグループは週2コマ（1コマ50分）の国語・社会・外国語の授業で取り組みました。どちらの授業も毎時間最初の10分は「DropNews」の時間として1年間継続して取り組みました。

教室の前にTVモニターを設置し、配信されたDropNewsのスライドを編集モードの状態を表示して、教員が1スライドずつ提示しながらその日のニュースの解説を行いました。最初の頃は「ニュースなんか難しいし知らん」「興味ない」という生徒も居ました。それでも、継続して取り組む中で、授業前に「今日のニュース何？」と質問する子や「今日のニュース〇〇やろ」とその日のニュースを予想して伝えてくる子なども出てきました。授業を始めて、スライドの1枚目を提示すると「今日のニュースです」と教員の真似をして読み上げてくれる子も出てきました。授業の日以外にも休み時間などに「□□ってニュースで見たで」と嬉しそうに教えてくれる子も居ました。子どもたちがニュースに興味を持ってきていることが感じられるようになってからは、提示の方法を少し変えました。1スライドを全て見せるのではなく、一部を見せて「さて、今日は何のニュースでしょう？」といった形でクイズ形式にしてみました。すると、子どもたちはこれまで学んだニュースや自分が登校前に見てきたニュースを思い出しながら各々が予想して答えるようになりました。家に帰ってからご家族とその日紹介したニュースのことを話したと連絡帳で知らせてくれるご家庭もありました。その他にもこれまで帰宅後自分のタブレット型端末で自分が好きなパスのことばかり調べていた子が、気になったニュースを調べてノートにまとめたと自慢げにそのノートを見せてくれることもありました。

本校の子どもたちにとって、TVやインターネットのニュースはニュースの切り替わりが早かったり、説明に使われる言葉が難しかったりするため、わかりにくく興味を持つのが難しいということがありました。そのため、子どもたちにとってニュースは自分から遠いもの、ともすれば関係ないものになってしまう傾向にありました。しかし、子どもたちもこの社会を構成する大切な一員です。だからこそ、社会で起きていることを他人事ではなく、自分事と考えてほしいと思ってきました。DropNewsは子どもたちにとって馴染みのあるイラストで、目で見てわかりやすく解説されているので、子どもたちにとっても興味を持ちやすく、理解もしやすかったと思います。今後も継続して取り組みながら、自分たちでニュースを調べたりまとめたりする活動も取り入れていきたいと思っています。



朝の会のプログラムの中に、DropNews を活用して今日のニュースを知る活動を取り入れました。DropNews は毎朝届くとても優れた教材です。教師は、メールに届いた DropNews を Keynote で開き、教師用タブレット端末 (iPad) に AirDrop で送ります。そして iPad とプロジェクタを有線でつなぎ、黒板に貼った可動式スクリーンに拡大提示しながら紹介しています。

子供たちは毎日 DropNews をとても楽しみにしています。着替え等が遅くなり DropNews が見られなくなった日がありました。とても残念だったのか翌日から着替えを素早くして朝の会に臨むようになりました。

DropNews は、児童の身近な毎日の生活に結び付いた内容が毎日二つ配信されます。分かりやすいイラストにシンプルな説明文で起承転結のストーリー仕立てになっており、知的障害のある特別支援学校に通う小学部 1 年生の児童でも理解できる内容になっています。教師は、ニュースの内容により子供たちがより分かりやすい言葉や出来事に置き換えて紹介することもあります。

アナウンス役のドロ太くんが、身だしなみを整えて良い姿勢で画面に登場すると、子供たちはにっこりしています。「かわいいね。」とつぶやく児童もいます。先日は、「きょうのにゅーす」の中で DropNews のワンシーンを活用して、「机の下に潜る」動作を行いました。避難訓練の事前学習では机の下に潜ることができなかった児童も、スクリーンに拡大提示されている「机の下に潜る」イラストを模倣して、同じように机の下に潜ることができました。防災や安全への適切な行動理解について、視覚支援がいかに大事であるかを感じさせられたエピソードです。

また、さまざまな動物や乗り物、果物や花の名前、都道府県名や日本、世界の国々等々児童にとっては、初めて聞く物や事象の名前と出会う時間であり、既知の事象を再確認する学びの時間でもあります。朝の会のほんの 5 分間の「きょうのにゅーす」の時間ですが、子供たちの世界がより広がる貴重な時間であり、子供たちの吸収力の素晴らしさと DropNews の視覚効果や環境設定の重要性を毎朝気付かされます。教師にとってもとても大切な時間になっています。

<今後取り組みたいこと> 拡大した画面のニュースを最後まで集中して見ることが難しい児童もいます。児童の画面に注目して見ようとする気持ちを育むために、児童の机の上に iPad (スクリーンに拡大提示しているもの) を置き、教師と一緒にニュース画面を切り替える役割に挑戦してみたいと思います。iPad とスイッチインターフェイス、そして児童に合ったスイッチ類をつないだときの児童の反応が楽しみです。また、次年度は小学部の全クラスの朝の会や、中学部・高等部でも DropNews を活用していきたいです。次年度も配信が継続されることを願っています。



DropNews を取り入れて変わったこと

D 養護学校 高等部 2 年生 大藏 潤 藤巻 嵩寛 笹平 陽子

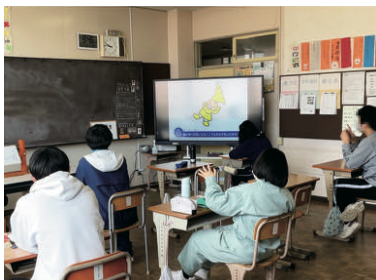
本校は、知的障害のある特別支援学校です。今年度、電子黒板と一人一台 iPad を持てる環境になったタイミングで DropNews の配信が開始されたのを受け、ICT 利活用担当者から担任の先生 2 人へ声をかけ授業に取り入れてもらいました。

導入として ICT 利活用担当者がゲストとして面白い人が何か（News）を持ってきたという場面を設定し、授業を行いました。その後、コロナ禍の対応として聴いていた歌を聴く時間をやめ、「今日のニュース」を位置づけました。始めてすぐに変化が起きました。それまで朝の会になると、顔を机に埋めていた A さんが「今日のニュース」が始まった途端に顔を上げて画面に視線がくぎ付けになったのです。（今日のニュースが終わると同時に再び顔を机に埋めるわけですが・・・笑）これをきっかけに、見てわかることの大切さ、生徒が参加する機会の少なさ、教師の話の長さなど、朝の会の持ち方そのものについても考え直す機会となりました。

DropNews のよさを生かし、「今日の天気」のコーナーでは、外の様子を見て写真カードを黒板に貼ることから、天気予報のアプリを使って黒板に映し出し、客観的なデータを確認して天気カードを黒板に貼って伝える活動に切り替えるなどの工夫に繋がりました。さらに、自主的な行動を促すことをねらい、読み上げる役割を場面として設定しました。興味のあるコンテンツだからこそ、子どもたちはすぐにやってみたいと乗り気でした。読むのが得意な子どもから始め、クラスの当番制へと移行しました。また、黒板の予定にもニュースの当番の名前を記入して、誰がその日読むのかわかるようにしました。

A さんは学級内で発表するという経験はこれまでなく、取り組むだろうかという不安もありました。ついに A さんに当番が回ってきました。教師の不安をよそに、すらすらと文章を読み上げました。朝の会が終わった後に「よくわかったよ」「ニュース面白かったね」などの会話が生まれ、A さんは、にこっとした表情で嬉しそうに微笑みました。今では、読み上げた後に「ばっちり！」とつぶやく姿もあります。また別の日には、最後の読み切る場面で本物のアナウンサーのように気持ちを込めて伝える姿がありました。聞いていたクラスの友達から自然と拍手が沸き起こり、とても良い雰囲気朝の会が終わりました。A さん以外にも、欠席した生徒が「昨日のニュースどんな話だった？」とニュースへの関心の高まりを感じたり、ニュースが実際の生活の中で話題になりコミュニケーションが深まったりと学校生活の活力となっていることが伝わってきます。

DropNews のイラストに大いに興味を示したことから始まった「今日のニュース」。当番活動を楽しみにし、ニュース当番になると自信をもって iPad を操作し、ニュースを伝える生徒の姿から教師も元気もらっています。



自立活動の中で DropNews を活用しています。

肢体不自由学級の担当生徒と日々関わる中で、「どんなことに興味関心があるのか？」を知るところから自立活動につなげていこうと考え、取り組みをスタートしました。

担当の生徒は初めてすることに興味を持ちやすい反面、不安も高く持ってしまうため、まず生徒は DropNews を見るだけとして教師が進めていくことにしました。ニュースの文は抑揚をつけながら読むようにすると、とても集中して画面を見る様子が伺えました。

取り組みを進めていくうちに「次は何かな？」と期待いっぱいの表情が見られるようになり、自分からタブレットを触って進めようとする様子が見られました。タブレットのタッチ操作は確実ではなかったため、Bluetooth マウスを使用し、スイッチを使ってパワーポイントを進めていくようにしました。教師がニュースを読み、生徒がスイッチを押して画面を進めていく形ができました。

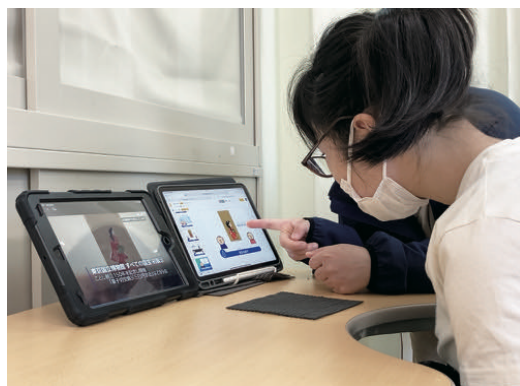
取り組みを続けていくうちに、『キャラクターなどのかawaii物』『シュールなイラスト』などに興味を持つ傾向が見られることがわかりました。気に入ったイラストが出ると画面に顔を近づけ、声を出して笑っていました。

また、DropNews を観た後、気に入ったニュースを YouTube でテレビのニュースを検索し、その後もう一度 DropNews を観る時や DropNews のスライドと同じ場面を YouTube の画面と並べて観ると、何度も見比べる様子が見られました。

保護者も「こんなニュースがあったんですね」や「こんなことに興味があるんですね」と共有できることも増えました。

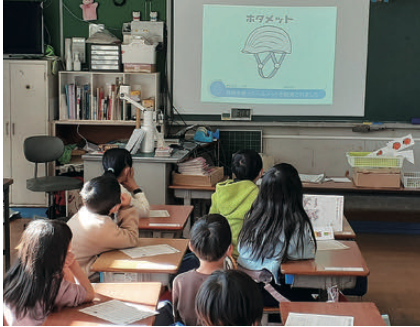
今後は学校以外の場所でテレビを観たりした時に「これ知ってる!」と思ったり、それを伝えられたりできたらいいなと考えています。

現在のバージョンだけではなく文章を読んでもくれるバージョンや音楽や効果音などが入ったバージョンがあったら面白いのでは?といろいろ考えてしまいましたが、やはりニュースは新しさが大切です。『新しさ』を大切にしながら、生徒がさらに理解しやすく伝えられるような工夫をしていきたいと考えています。



毎週金曜日のお楽しみ『今週の DropNews』

F 小学校 LD 等通級指導教室 福島 徹



市内全ての小学校で MIM 教材を活用した読み書き支援に取り組んでいます。私も毎週金曜日の 5 時間目には 1 年生の教室に出向き、MIM 教材を使ったことばの学習に取り組んでいます。毎回学習の最後には一週間分のスライド (PowerPoint) をつなげた『今週の News』のコーナーを設けています。金曜日の朝、1 年生とすれ違うと「今日は News ある？」と声を掛けられます。そのくらい子ども達にとって楽しみのひとつとなっています。



毎日配信されているデータを、PowerPoint でダウンロードし、字幕に合わせたアナウンスを挿入しています。動画変換した PowerPoint を子ども達は目をキラキラさせて注目し、教室のあちこちから驚きの声を上げたり「これ、知ってる～」と喜びながら叫んでいたり、週末のお楽しみとして位置づいています。家庭でテレビニュースを視聴しているときに DropNews で見たことが話題に上がることもあるようです。

その他の場面でも作成した動画 News が視聴できるよう校内の廊下に映し出し全校の子ども達が通りすがりに見られるようにしています。



掲載許可を頂きお母さんに撮影していただきました。

まなびの教室では、スライドをプリントアウトし、授業の中で活用しています。スライドごとに書かれている字幕短文を一緒に見ながら読んであげたり子どもが自分で読んでみたりした後に、その中に出てくる言葉 (語彙) の意味を確かめたり、熟語の文例として活用したりしています。学校だけでなく、家庭でも配信登録をして家族で楽しく視聴してもらっています。

本校小学部では、登校時刻から朝の会が始まる 20 分間、DropNews をテレビ画面で放映し、児童のやり取りの力の向上や一般時事に対する興味関心を高めるために活用しています。

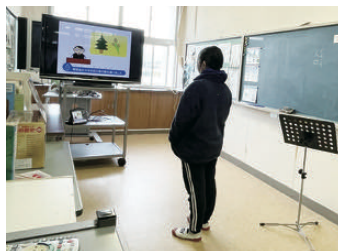
サッカーワールドカップのニュースでは、対戦表や参加国のスライドを見ながら地球儀と国の場所を照らし合わせたり、対戦結果の予想をしたりしました。家庭でも、ワールドカップのニュースを見ていたようですが、DropNews をきっかけに改めていろいろな国が参加すること、国旗や国名、日本との距離など、やり取りをしながら深めることができました。また、デフリンピックが 2025 年に東京で開催することが決まったニュースでは、卒業生が出場できるかもしれないことや、何歳から出場できるのか、2025 年になったら自分たちの年齢はいくつになっているのかなど、児童同士または児童と教員で話して楽しむ姿が見られました。

「発電所」や「節電」など児童が日常的に使わない言葉が取り上げられていたニュースは、言語指導として言葉の意味を確認することに活用できました。本校小学部に在籍している児童は聴覚障害があります。そのため、日常的にテレビの字幕機能を使ったり手話ニュースを視聴したりしています。しかし、そのときに表示される言葉が難しく、内容が理解できないこともあります。簡単な文字情報とイラストでまとめられている DropNews をきっかけに言葉の意味を確認することができました。また、日本特有の語呂合わせの記念日は聴覚障害のある児童にとって日本語の音のイメージから想像が難しいため、招き猫の日、さかなの日など児童が初めて触れる言葉があり、言語指導のきっかけになりました。

本校では校内の廊下に複数設置している見える校内放送（みらいスクールステーション）を使って行事予定や時刻などを示し、聴覚障害のある児童生徒以外にも情報を分かりやすく提供できるようにしています。今年度は、これに加えて一週間分の DropNews のスライドにアニメーションを付けて校内放送で活用しました。インパクトのあるイラストが表示されると、見ている児童生徒の楽しそうな声が聞こえ、ニュースの内容について教員と話す姿が見られました。

今年度 DropNews を活用して、本校教員からは「今後、物価高騰のニュースをきっかけに社会科の導入に活用してみたい」、「テレビや新聞のニュースよりも要点が分かりやすくまとめてあり、来年度も継続したい」という意見がありました。また、「児童生徒が自分で見て分かる情報が放送されることで、情報を自分から取ろうとする姿勢が育つのではないか」という意見もありました。

DropNews は、目で見て分かる、そして児童生徒にとって分かりやすいイラストと文で表されていることが魅力です。家庭で見たことのあるニュースが児童生徒の分かる言葉で表されていることで、社会で起きていることが分かります。今後も DropNews を活用し、児童生徒とやり取りをして内容を深めたり、もっと詳しく知りたいという意欲を引き出したりしていきたいと思えます。



毎日の授業の始めに DropNews で「ニュース読み」の時間を実施しました。一人一台のタブレットを利用して、スライドショーを流して、ニュースを読むキャスター役と、視聴者役に分かれ、ニュースを聞いた後に、感想を伝え合うようにしていました。

目的として、キャスター役には初めて読む文章を正確に読んで相手に伝える力、相手を意識してタブレットの場所や角度を工夫し見えやすさを意識する力をつけようと考えました。視聴者役は、相手の話をしっかり聞くこと、感想を周りの人に伝える力をつけようと考えました。

児童は自分から積極的にキャスター役を希望したり、視聴者役になった時も感想を広げて伝え合う様子がありました。読み仮名をふってくれているので、覚えていない漢字があっても困らないですし、漢字が苦手な児童も自信を持って読むことができました。聞くことが苦手な児童も視覚的な支援（イラストやレイアウト）があり、わかりやすいので、意欲的に聞く様子が見られました。時事にも詳しくなり、好きなアニメの話ばかりだった児童も、話の幅が広がりました。毎日の授業の始まりが楽しい時間になっているようでした。

ニュースを聞き終わった後、最初は手を挙げて感想を発表していましたが、回数を重ねるごとに自然と口から感想が出てきました。途中からは、手を挙げるルールを無くして、ニュースが終わったら雑談を始めるとしたことで、更にしゃべる力がつきました。例えば「ツチノコを見つけると131万円もらえる」というニュースを見たときは、ツチノコが本当にいるのかいないのか、131万円あったら何に使うかなど、自分たちで話を広げていくことができました。児童が大きくなっていくに従い、周りの人とニュースに関して雑談をする力は、とても大切な力だと思いました。

写真は、児童用タブレットでスライドショーをしている画面です。学校に來れていない児童も、オンラインで画面を共有し、テレビでニュースを見ているような感覚で実施することも非常に役立ちました。チャットで感想を伝え合い、リアクションボタンでチャットに反応するなど、一人一台のタブレットと合わせて活用することで、DropNews の可能性が更に広がると思いました。

今後も、DropNews を利用して、雑談する力をつけるのはもちろんのこと、キャスター役の表現の仕方をテレビや YouTube を参考に更に上達させていきたいと思いました。また、高学年以外でもどのように活用すれば児童の力を伸ばせるか、児童一人ひとりの実態に合わせて考え、実践していきたいです。



私が所属する本校小学部 5 年生での DropNews の活用について、紹介します。私が最初に考えた活用方法は児童による DropNews の朝の会での発表でした。しかし、本校小学部は肢体不自由児童が多く在籍し、身辺自立に関して取り組む機会が多く、教師から児童への援助には多くの時間と量を必要とします。朝の会での発表は難しく感じ、「朝の身支度の時間に DropNews を活用できないか?」と考えました。私は DropNews が児童の視界に入り、クラスの教師も興味を持てるような方法として、「Keynote」で自動再生される iPad を毎日朝の取り組みで水筒と給食自助具セットを入れる籠と一緒に並べてテーブルに置きました。

DropNews が教師と児童の話題になることが増えたタイミングで、個別の指導計画の目標に「他のクラスの教師や友だちとの関わりを増やす」とある児童 2 名に「昼休みに他のクラスにニュース発表に行かない?」と声をかけました。これらに対し、児童は興味を示し、他の教師からの理解も得られました。次に、発表に行くクラスを考えました。前年度まで私が所属していた 4 年生にお願いをすると、快く賛同してくれました。

取り組み当初 5 年生児童は積極的とは言い難く、一方の DropNews を待つ 4 年生は 5 年生が訪ねてくることに期待感を持っていました。5 年生は 4 年生からの歓迎に喜んでいましたが、私はこの取り組みに対する 4 年生と 5 年生の温度差を感じていました。そこで 4 年生教師に「DropNews カード」を事前に預け、児童と一緒に 5 年生に渡しに来てもらうようお願いします。5 年生は 4 年生がカードを渡しにくると、はにかんだ笑顔で受け取り、教師にそのカードを見せて確認をしていました。その場面に立ち会う教師からは「今日はニュースの日やね。」とか「昼休みに行かんとね。」などの声かけが増え、本人たちのやる気は上がってきました。

DropNews が表示された iPad を持って一人は独歩、一人は歩行器で 4 年生教室に行きます。準備された椅子に座り、教師の「せーの」の声かけで、「今日のニュースです。」と発表が始まります。二人が音声言語のみで伝えることは難しいので、身振りや手振りを交えながら発表します。児童には難しいニュースもありましたが、イラストから内容が想起されやすい天候、動物やお菓子の話などは、興味を持って楽しめています。また、月曜日に保護者から連絡帳を通じて伝えられる土日の出来事を教師が事前に「DropTap」で発表できるように準備し、火曜日の DropNews 発表後に本人たちから「プライベート News」として伝えていきます。自分の話題なので、内容をよく理解していて、自信を持って伝えることができます。DropNews の発表場面を拡げたり、コミュニケーションの楽しみが感じられたりするように、今後も取り組みを続けていきたいと思えます。



朝の身支度用テーブル



DropNews カードのやりとり



プライベート News の発表

DropNews が配信されるようになり、朝の学活の中で生徒が DropNews を発表する時間を設けました。毎日続けたことで生徒たちにとって DropNews が当たり前のものとして定着してきました。そこで、冬休み中の生活記録の代わりに、一人ひとりが「冬休みの News」を作成し、休み明けに発表するという活動を考えました。

教師側の準備として、iPad のアプリ「Keynote」を使い、DropNews の背景に写真と文字を入力するだけでよいテンプレートを用意しました。それを生徒個人の iPad へ共有し、写真や文字の入れ方を確認した後、冬休みに持ち帰ってもらいました。

冬休み明け、一人ずつ発表をしました。お正月に食べたご馳走を紹介する生徒、家族や友だちと出かけたことを紹介する生徒、オンラインゲームで 1 位をとったことを紹介する生徒、県外で暮らす家族が帰ってきたことを紹介する生徒、ダラダラ過ごしたことを紹介する生徒など、それぞれの個性が光る内容の発表でした。中には大学に通う姉が帰ってきたことが嬉しくてどうしてもそのことを News に入れたいけど、姉に写真を拒否されてしまったため、玄関の靴を撮影して帰ってきたことを表現した生徒もいました。また、キャスターになりきるために「発表する前になにか音楽を流してもいいですか？」と聞いてきた生徒もいました。発表を聞いていた生徒からも、「楽しそう！」「うちでは〇〇を食べたよ。」「初詣に行く神社はいろいろなんだね。」などと感想が飛び交い、とても盛り上がった時間となりました。

今までも長期休みのあとに、一人ずつ休み中のことを発表するような活動をしていましたが、それは口頭での発表でした。今回、持ち帰った iPad で写真を撮り、それを元に発表をする活動でもよかったのですが、DropNews を媒体にしたことで、生徒たちが撮影した写真についてテンプレートに収まるように、短くても相手に伝わる文章を考えたり、普段の DropNews のように 4 枚のスライドで最後にオチをつけようとしたりするなど、一人ひとりが工夫をして楽しいスライドを作ろうという姿に繋がったと思います。

朝の学活時、今日の DropNews はどんな内容なのか楽しみにしている生徒がたくさんいます。そして News の発表があると、「これ知ってる！」「テレビでもやってた。」「え、こんなことがあったの？」と様々な反応があり、そこからコミュニケーションが生まれています。DropNews が楽しい内容で身近なものになったからこそ、News を受け取る側だった生徒たちが、発信する側になってみようという今回の活動に対し、自分なりの News を作ることに楽しみながら取り組めたのだと思います。

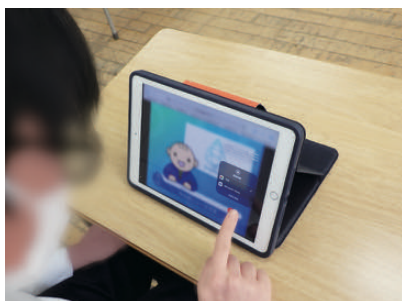


概要 DropNews を GIGA 端末で表示し、生徒が読み上げ、画面収録（音声含む）を行う活動に取り組み、毎日持ち帰りました。学校での活動が保護者に伝わるだけでなく、時事関連を題材にすることで生徒の語彙が増え、興味関心が広がり、ニュースキャスターを意識することで滑舌がよくなるなど、成長の様子を家庭と共有することができました。

ニュースを読み解く力を育む 新型コロナウイルスや異常気象、物価の高騰など、目まぐるしく社会が変化する現代、ある日突然これまでの日常が変わることがあります。「大好きな学校に登校できない」「夏の暑い日には校庭に出るはいけない」「おやつが量が減ってしまい、我慢しなければならない」など、十分な説明がないまま子供たちに強いる場面が多くありました。知的障害を有する児童生徒の中には、日常における変化に対して強く不安を感じる方もいます。そして障害の特性から、それらの変化が「なぜ必要か」「いつからいつまでなのか」などを正しく理解することが困難な場合があります。本実践をとおして、文字やイラストなどから話の内容を理解する学習に繰り返し取り組み、ニュースを読み解く力を身につけることで、物事の背景を理解できるようになり、「～できない・～しなければならない」から「～する」へと主体的な行動に転換できると考えました。

具体的な活用の流れ 実践の初期では、教師のメールアドレスに配信された DropNews の URL を、QR コードにして印刷し、生徒の GIGA 端末で QR コードを読み取りました。輪番でニュース係を決め、教室にあるプロジェクターに GIGA 端末の画面を投影してニュースを朗読しました。中期では、DropNews を表示して画面収録を行い、生徒自らが読み上げる音声も同時に録音しました。録音された自分の声を聞くことで、滑舌の明瞭性や、声量、間の取り方など、相手にどう聞こえているか客観的にとらえることができ、納得がいくまで撮り直す生徒もいました。収録後の動画は学級と家庭とで再生し、聞き手からの肯定的な評価を受け、より活動に対して意欲的に取り組むようになりました。後期では、DropNews の URL を生徒が閲覧可能なオンラインコミュニケーションツールに投稿しました。生徒たちは投稿された URL から DropNews を閲覧し、冬休みなど学校に登校しない期間でも、自宅にしながら毎日の DropNews を視聴することができました。ニュースの文章を自分なりの言葉で要約し、オンライン上で発表しあう活動にも取り組むことができました。

生徒の反応 ニュースで得た知識と日常生活とが結びつく瞬間がありました。毎日の日記課題に「ワクチンを打ったので(学校を)お休みしました」「アイスクリーム(の値段)が高くなりました」といった記述が含まれるようになり、それは「ニュースで観たことでした」と嬉しそうに報告してくれました。生徒にとっては、宝探しのように、日常の中にあるニュースを見つけることが楽しいようです。



画面収録し、ニュースを録音している様子



要約し、オンラインで互いに評価しました

「DropNews」の具体的な活用場面 児童によって、受け止めやすい声の質が違うことに着目し、合成音声作成ソフト「VOICEVOX」を使用して4種類の動画を作成しています。

ケース1：言葉でのコミュニケーションが難しい児童が在籍するクラスでの活用

朝の会に「今日のニュース」というコーナーを作りました。基本的に DropNews の動画を視聴します。キャラクターで区別した動画のサムネイル画像を提示し、児童に視聴したいキャラクターを選択してもらいます。どのキャラクターの DropNews を視聴するか、意見が分かれることがありますが、児童の話し合いや、多数決で視聴するキャラクターを決定しています。

ケース2：漢字交じりの文を読むことが課題となっている児童が在籍するクラスでの活用

全員で DropNews の動画を視聴します。その後、係の児童がスライドを確認しながら、DropNews を読み上げます。係は順番に変わるので、複数の児童にチャンスがあります。

児童生徒の反応

- DropNews を視聴することが楽しみになり、視聴するタイミングで、「ニュース」と声に出したり、画面にキャラクターが映ると指差しをしたりする様子が見られます。また、動画内の合成音声を模倣する児童もいます。
- DropNews の感想が複数の児童生徒から聞かれるようになりました。
- 朝の会で、自分の好きなキャラクターの DropNews が視聴できなかった児童は、他の時間に視聴するようになりました。
- 絵が上手で、創作意欲ある小4のAさんは、自分で DropNews を描くことができました。ある日、授業参観に行くと、A4の用紙複数枚にオリジナルの DropNews を描き、手渡してくれました。内容はコロナウィルスの感染予防に関わるもので、丁寧にフルカラーで描かれていました。

使ってみての感想 時事問題や社会情勢について、シンボルと短い言葉で説明されているので、発達段階の違う児童が在籍するクラスでも活用しやすいです。DropNews を視聴することで、クラス内でニュースの内容に関する発言や会話が増えました。

今後取り組みたいこと

- DropNews 動画作成の作業を児童生徒と一緒にする予定です。
- 全校のクラスが参加した「DropNews アワード」(1年間で一番良かった(心に残った)ニュースについて、プレゼン大会を実施したいと思います。
- 小4のAさんの状況を鑑み、オリジナル DropNews を作る学習を行いたいと考えています。
- 職員対象で、DropNews を題材にした教材作成研修・発表会を実施します。



第1回 DropNews イベント チラシ

第1回 DropNewsイベント in **福岡**
視覚支援の基本とドロップニュースの活用



8.7 2022
SUN 13:00-16:00

会場 リブリオ行橋 けやきホール

参加費 無料



12:15 受付開始

13:00 開会

13:05 講義 1

視覚支援基本のキ

※ロケット・プロジェクト 青木 高光

13:55 講義 2

学校での視覚支援：保健室編

※ロケット・プロジェクト 竹内 美子

14:15 休憩

14:35 講義 3

DropNews とは

※ロケット・プロジェクト 青木 高光

15:00 活用紹介

DropNews 活用事例紹介

現場で視覚支援や DropNews の活用に取り組んでいる先生方

16:00 閉会

お申し込みは
こちらから



<https://peofix.com/event/3291948>

同日同会場開催
最新コミュニケーションアプリ
「DropTap」
活用法セミナー



<https://peofix.com/event/3291948>

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

主催：NPO 法人 F ロケット・プロジェクト

第1回 DropNews イベントの概要

※ 新型コロナウイルス感染状況によりオンラインイベントに変更

参加者
100名

日時 2022年8月7日(日) 13:00 - 16:00 (オンライン開催)

参加費 無料

日程

13:30 開会

13:30 講義1「視覚支援基本のキ」 青木高光 (ドロップレット・プロジェクト)

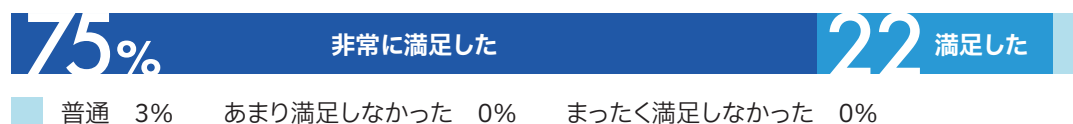
14:00 講義2「学校での視覚支援：保健室編」 竹内奏子 (ドロップレット・プロジェクト)

14:30 講義3「DropNewsとは」 青木高光 (ドロップレット・プロジェクト)

15:00 活用紹介「DropNews 活用事例紹介」 木田啓二氏 榎下智咲氏 日渡雅貴氏 高崎健太氏

16:00 閉会

問1：イベントにはどのくらい満足されましたか。



問2：イベントの内容全体に関するご意見・ご感想をお書きください。

- 初めて参加させていただきました。Drops が生まれた経緯や、その活用、また DropNews の活用実践例を知ることができて、とても有意義な時間でした。また参加させていただきたいです。
- プログラムの構成が良く、学びたい事がずっと頭に入ってきました。プレゼンテーションが分かりやすく、集中力が切れる事なく話に聞き入ることができました。この会を設定していただき、大変感謝しております。どうもありがとうございました。
- 頑張ってる先生方の話をきいたり、実践を見たりすると自分も頑張ろうと活力が湧きます。ありがとうございます。今は、視覚支援のためのアイテムは山ほどありますが、なかなか活用できずに月日が流れています。何でもかんでも自分がする、というより校内で上手く役割分担しながら、子どもたちが偏りなく恩恵を受けられるようにしていく必要も感じました。

第2回 DropNews イベント チラシ

第2回 DropNews イベント
視覚支援の基本とドロップニュースの活用



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

10.8 2022 SAT 19:00-20:30

参加費 無料 オンライン開催



19:00 開会

19:00 講義 1

視覚支援基本のキ

ドロップレット・プロジェクト 青木 高光

19:20 講義 2

学校での視覚支援：保健室編

ドロップレット・プロジェクト 竹内 美子

19:40 活用紹介

DropNews 活用事例紹介

現場で視覚支援やDropNewsの活用に取り組んでいる先生方

20:00 講義 3

DropNews 制作裏話

ネスコプラズム

20:30 閉会

主催：NPO 法人ドロップレット・プロジェクト

第2回 DropNews イベントの概要

参加者
57名

日時 2022年10月8日(土) 19:00 - 20:30 (オンライン開催)

参加費 無料

日程

19:00 開会

19:00 講義1「視覚支援基本のキ」 青木高光 (ドロップレット・プロジェクト)

19:20 講義2「学校での視覚支援：保健室編」 竹内奏子 (ドロップレット・プロジェクト)

19:40 活用紹介「DropNews 活用事例紹介」 遠藤美幸氏 大澤由美子氏

20:00 講義3「DropNews 制作裏話」 ネスコプラズム

20:30 閉会

問1：イベントにはどのくらい満足されましたか。



普通 0% あまり満足しなかった 0% まったく満足しなかった 0%

問2：イベントの内容全体に関するご意見・ご感想をお書きください。

- 皆さんのお話しそれぞれ面白かったのですが、特に DropNews の「中の人」の制作秘話、とても興味深かったです。ご苦労がよく伝わりました。これからも楽しい News を楽しみにしています。
- どの方のお話もとてもワクワクしながら、聞かせていただきました。青木先生の怖いものを怖いまま伝えない、遠藤先生の整えられた視覚支援の環境、大澤先生の自立担当としての活用方法や視点、奏子先生の再現トイレ、本田先生の制作秘話などが、お聞きできて良かったです。
- わたし達が毎日新聞やネット、テレビでニュースをみて、様々な情報を知るように、娘にも毎朝ニュースつくってみようかなと思いました。実践できるかはわかりませんが、週間ニュースくらいからやってみようかなと思います！みなさんのお話が楽しくて夕食どきでしたが、家族とご飯食べながら聞いてました。

第3回 DropNews イベント チラシ

第3回 DropNewsイベント in **長野**

12.17 2022 SAT 12:50-18:00

会場 佐久市コスモホール

参加費 無料

12:30 リアル、オンライン共に開場 12:50 オンライン配信開始 開会挨拶

13:00 基調講演 「視覚支援と教材教具」 東北福祉大学 杉浦 徹 

13:50 カンファレンス 1
「視覚支援シンボル Drops の歴史と DropNews」 フロップレット・プロジェクト 青木 高光 

「保健室の視覚支援と Drops のこれから」 フロップレット・プロジェクト 竹内 美子 

オンライン配信終了 以降、リアル会場のみ

14:30 同時並行企画
ティータイム & 勝手におしゃべりコーナー
会場に複数ブースを設け、参加者はそれぞれ自由に移動

 原 伸生  谷 美也子  太田 直樹  山崎 雅史

16:00 カンファレンス 2
「番組の途中ですが、DropNews です」  矢島 悟  本田 祐介

18:00 クロージング

Supported by  日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

お申し込みはこちらから

<https://peofix.com/event/3425703/>



主催：NPO 法人フロップレット・プロジェクト

第3回 DropNews イベントの概要

参加者
オンライン 100名
リアル会場 34名
計 134名

日時 2022年12月17日(土) 12:50 - 18:00 (ハイブリッド開催)

参加費 無料

日程

12:50 開会

13:00 基調講演「視覚支援と教材教具」 杉浦徹先生

13:50 メインカンファレンス1「視覚支援シンボル Drops の歴史と DropNews」 青木高光
「保健室の視覚支援と Drops のこれから」 竹内奏子

14:30 オンライン配信終了 以降、リアル会場のみ

14:30 同時並行企画「ティータイム & 勝手におしゃべりコーナー」

会場に複数ブースを設け、参加者はそれぞれ自由に移動

原伸生氏、谷美也子氏、山浦雅史氏が展示・講師

16:00 メインカンファレンス2「番組の途中ですが、DropNews です」 矢島悟&本田祐介

18:00 閉会

問1：イベントにはどのくらい満足されましたか。



問2：イベントの内容全体に関するご意見・ご感想をお書きください。

- 先生方一人一人のお話がとにかくおもしろかったです。内容も勉強になることばかりで、今回は保健室での視覚支援についてお聞きすることができ、竹内先生の実践がとても参考になったので、今後の自分の日常執務にいかせていけたらと思いました。ありがとうございました。
- オンラインでは感じることでできない講師陣やスタッフの皆さんの熱量や心配りに加え、充実した内容、一つ一つに感激した1日でした。また、若い方もいらっやって、熱心に(楽しそうに)学んでいる姿を見て、これからの特別支援の未来は明るいなあと思いました。
- 私にとっては、心の温くなるイベントでした。視覚支援と言っても、ことばはとても大切なものですし、視覚化するには意図や背景などが理解できていることが大切だと改めて感じました。通常では見られない DropNews よかったです! 手芸もう少し時間が欲しかったです、多くの情報を得ることができました。同じ校内なのに、話す時間が無いね、と同僚と話す時間も持てました。あっという間の楽しい時間でした。
- まず支援機器ありきではなく、目の前の子どもありきからことを始め、現場にあんなこともこんなこともできる・・・と広がる連想と夢をもたらせていただき、とても楽しい時間でした。先生方の熱量と遊びゴコロを忘れないお仕事ぶりにとても触発されました。

第4回 DropNews イベント チラシ

第4回 DropNews イベント
坂井 聡 先生 講演会

Supported by  日本 THE NIPPON 萩四 FOUNDATION

2.19 2023 **SUN** 13:00-16:00

参加費 無料 オンライン講演会



13:00 Zoom 入室受付開始 13:30 開会

13:30 坂井聡先生による講演

「コミュニケーションの自己点検」

徳川大学経営学部長 坂井 聡

途中休憩 10分

15:30 講演終了 15:45 閉会



お申し込みはこちらから

<https://peafix.com/event/3471612>



主催：NPO 法人ドロップレット・プロジェクト

第4回 DropNews イベントの概要

参加者
100名

日時 2023年2月19日(日) 13:00 - 16:00 (オンライン開催)

参加費 無料

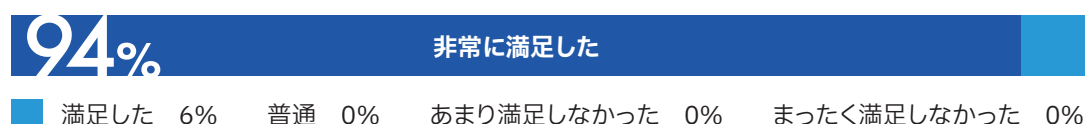
日程

13:30 開会

13:30 坂井聡先生講演「コミュニケーションの自己点検」

15:30 講演終了・閉会

問1：イベントにはどのくらい満足されましたか。



問2：イベントの内容全体に関するご意見・ご感想をお書きください。

- 自分の支援方法を振り返る良い機会となりました。何を伝えたいのかを想像し、それを叶える方法を考える。今の実践をもう一度見直し、実施していきたいと思います。
- あっという間に時間が経ってしまいました。自分の日々子ども達への向き合い方を振り返りながら(点検しながら)、坂井先生のお話を聞きました。今、自分が出来ている事、出来ていない事を認識できてとてもよかったです。特別な対応をするけれども、その先の姿を想像しながら関わることも大切だなと思いました。また、構造化はするけれども、何を目指していくのかまで考えないと、確かに事業所では難しいというケースもよくあります。誰でもができるような支援という考え方(シェフがいなくてもの件)、勉強になりました。
- 坂井先生が昔から大切にされてきた「ICF」「構造化」「コミュニケーション」は、今でも変わらず大切にすべき内容だと改めて感じました。昔は、特別扱いが差別だったけど、今は、特別扱いしないことが差別という合理的配慮の考え方も印象的で、それこそ“特別支援”だと思いました。
- 毎回、無料でよいのだろうかと思うような充実した内容のイベントを提供していただき、ありがとうございます。今は、支援ツールの使い方を知りたいとなればネット検索や書籍で学べる時代だと思うのですが、コミュニケーションにかかわるスタンスが自分寄りで偏ったものであれば、学んだツールも本当の意味での子どもにとってのコミュニケーションツールにはならないと思います。だからこそ、今日のようなお話を直接お聞きすることができて大変勉強になりました。「音声言語では表現できないから」よりは、「この方法ならこんな(おもしろい)ことができるから」といった捉え方でコミュニケーションの機会や方法を探ってみたいと思います。

第5回 DropNews イベント チラシ

第5回 DropNews イベント
矢島 悟 先生 講演会



2023 **3.12** SUN 13:00-16:00

リアル会場 アリア 伊那市レンタルスペース allia 会議室

オンライン Zoomによる配信

参加費 無料



12:45 リアル、オンライン共に開場

13:00 オンライン配信開始 開会挨拶

13:05 講演

Let's 視覚支援

長野県伊那高等学校 矢島 悟

途中休憩 10分

～わかる・できる・たのしい支援のススメ～

15:00 休憩

15:10 活用紹介

DropNews 活用事例紹介

北信濃しんがき高等学校 松本 祥子

長野県伊那市立伊那小学校 井上 真子

16:10 クロージング

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

お申し込みはこちらから

<https://peatix.com/event/3512216>



主催：NPO 法人ドロップレット・プロジェクト

第5回 DropNews イベントの概要

参加者
オンライン100名
リアル会場 13名
計113名

日時 2023年3月12日(日) 13:00 - 16:00 (ハイブリッド開催)

参加費 無料

日程

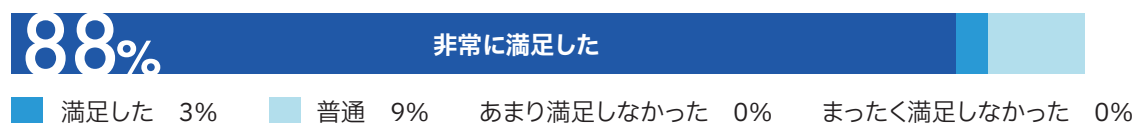
13:00 開会

13:05 矢島悟先生講演「Let's 視覚支援 ~わかる・できる・たのしい支援のススメ~」

15:10 「DropNews 活用事例紹介」 松本祥子氏 井上賞子氏

16:10 閉会

問1：イベントにはどのくらい満足されましたか。

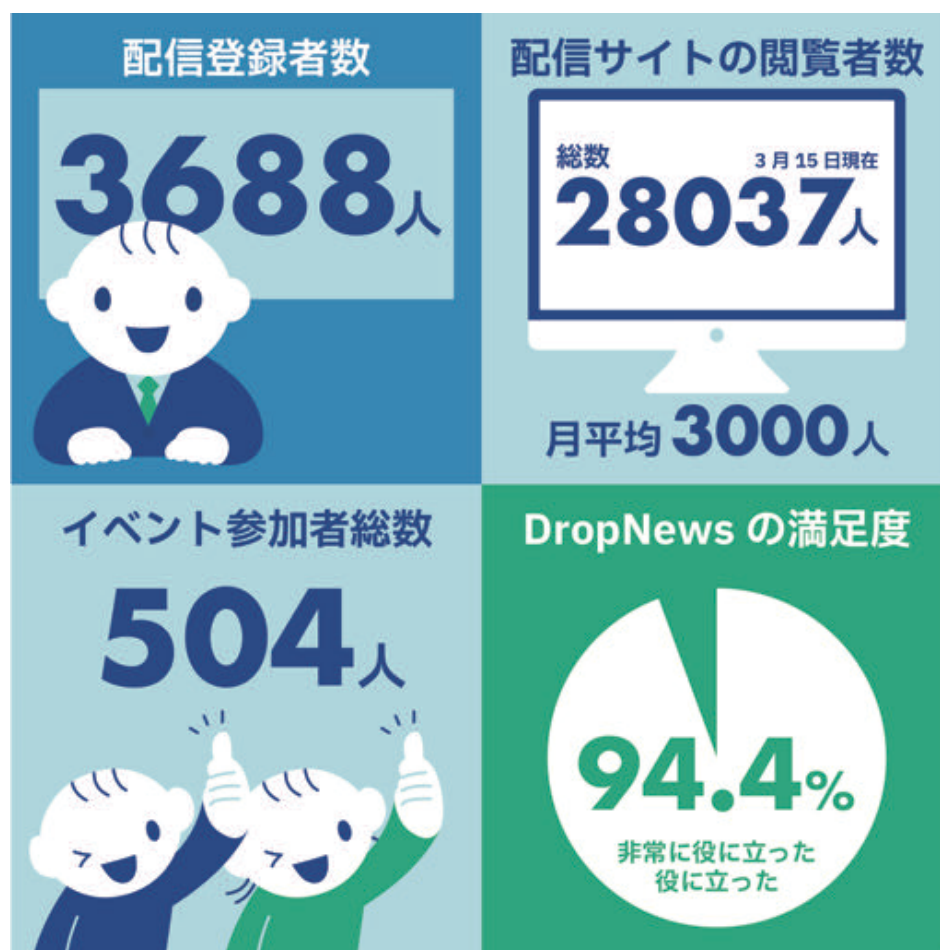


問2：イベントの内容全体に関するご意見・ご感想をお書きください。

- 視覚支援はやっているけれど上手くいかないことが多く、今日の講演で自分の支援は威嚇支援だったんだなと気付かされ、子どもたちに申し訳ない気持ちになりました。目が覚める、矢島先生のお話でした。明日から、視覚支援をやります! ありがとうございました。
- 「視覚的認知は発達する」子ども達の今ある力しか考えて来なかったと、発達を考えていなかったと考えさせられました。
- 先日卒業式がありました。小中学部は児生向けの視覚支援を用意し、安心して呼びかけ等できている様子でした。高等部は、必要ないとのことでしたが、決めるのは教師ではないなあと改めて思いました。ありがとうございました。
- 矢島先生の日頃の児童生徒、実践に対して真摯に向き合っておられる態度に大変感銘を受けました。「僭越ながら…」と言いながら、児童生徒と他の先生方への支援に入っていく姿勢はとても参考になりました。「どうしてしないのかな?」ではなく、遠慮気味風に「やって見せる」ことが大切だなあ…と感心しっぱなしでした。ありがとうございました。

DropNews：本年度活動のまとめ

DropNews が多くの方にとって有益であったことは、以下のような数値に表れています。



DropNews の配信とそれに関わる様々な活動は、日本財団様から多くの助成をいただくことによって実施することができました。この場を借りて御礼申し上げます。申請事業名は「知的障害・発達障害者向けわかりやすい情報提供サイトの構築」というものでしたが、単なるニュース閲覧サイトにとどめず、視覚支援ニュースを定時に配信するという形態にすることによって、多くの方が毎日楽しみにしてくれるサービスになったと自負しています。

ドロップレット・プロジェクト代表 青木高光